

◇第57回近畿国立大学体育大会陸上競技の部◇

日時:2019年8月8日(木) 於:奈良市鴻ノ池陸上競技場

【男子対校成績】

	1位 大教大	2位 大阪大	3位 京都大	4位 神戸大	5位 京教大
総合	143	139	114	106	76
トラック	84	92	57	47	32
フィールド	59	47	57	59	44

【女子対校成績】

	1位 京教大	2位 大教大	3位 大阪大	4位 神戸大	5位 京都大
総合	107	83	80	77	53
トラック	77	70	50	52	15
フィールド	30	13	30	25	38

<男子> T:タイムレース決勝

種目	順位	氏名(学年)	記録(風)	備考
100m	8	喜多政天(3)	予 10"81 (+1.5) 決 10"95 (+0.2)	Q
		野崎佑一(3)	予 11"02 (+1.6)	
		仁尾航太(2)	予 10"86 (+1.5)	自己新
200m	5	喜多政天(3)	予 22"01 (+1.6) 決 22"32 (-0.5)	q
		仁尾航太(2)	予 22"48 (-2.0)	
		三井爽平(2)	予 23"57 (+0.1)	
400m		西浦匡紀(3)	予 52"56	自己新
		今城有貴(2)	予 51"04	
		西澤憲生(1)	予 52"54	
800m	7	延命勇実(3)	予 2'00"63 決 2'04"04	q
		谷口佳史(2)	予 2'02"56	
		西浦匡紀(3)	予 DNS	
1500m	3	松井悠真(3)	決 4'02"31	自己新 関カA 西カB
	8	谷垣賢(2)	決 4'06"93	
		谷口佳史(2)	決 4'38"79	
5000m	5	矢田絢介(3)	決 16'08"04	
	8	岡田卓也(1)	決 16'25"06	
		細見貴之(2)	決 17'37"51	
110mH	1	高岡祐大(2)	T 14"78 (-1.8)	
	5	南部達哉(1)	T 15"28 (-1.8)	
	8	花崎仁実(3)	T 15"72 (-1.1)	自己新
400mH		花崎仁実(3)	予 56"88	
		廣澤航平(1)	予 1'01"07	大学初
		西澤憲生(1)	予 1'02"96	大学初
3000mSC	2	藤田竣也(M2)	決 9'38"89	
	6	若江亮平(2)	決 10'12"77	
		荒堀功三(1)	決 10'57"03	大学初
スウエーデンR		喜多(3)近藤(M1) 高岡(2)今城(2)	T 1'57"22	
走高跳	1	後藤 昂(M1)	決 2m07	
	7	佐藤勇斗(1)	決 1m85	自己タイ
		南川魁生(1)	決 DNS	
棒高跳	7	山崎大毅(1)	決 3m60	
		早川雄己(M2)	決 NM	
		西田浩太郎(3)	決 NM	
走幅跳	3	高松 稜(2)	決 7m13 (+1.4)	大学ベスト
		神田 実(4)	決 6m19 (+1.6)	
		安藤寛峻(1)	決 6m18 (+1.5)	
三段跳	2	神田 実(4)	決 14m67 (+2.0)	
	3	岩井勇樹(M1)	決 14m62 (+2.7)	公認14m11(+2.0)
		安藤寛峻(1)	決 12m94 (+1.8)	
砲丸投	2	芦田 充(1)	決 11m98	
	5	矢野大輔(1)	決 10m78	
		高畑大地(3)	決 9m78	
円盤投	4	上野環太(M2)	決 40m96	
	7	高畑大地(3)	決 37m49	
	8	矢野大輔(1)	決 34m76	
ハンマー投		高畑大地(3)	DNS	
		梶浦雅之(2)	DNS	
		矢野大輔(1)	DNS	
やり投	3	梶浦雅之(2)	58m88	
	6	芦田 充(1)	52m06	大学ベスト
		西田浩太郎(3)	27m73	



1500m 自己新で3位入賞した 松井悠真(3)



110mH 接戦を制し優勝した高岡(2)右、5位入賞した南部(1)左



走高跳 2m07で優勝した後藤(M1)



三段跳で準優勝の神田(4)

主将:高畑大地

近国は神戸大学が参加する対校戦の中では関西インカレに次いでレベルの高い戦いであり、その中で来年の関西インカレ2部において一部昇格枠を争うことになる大阪大学、京都教育大学に勝つことを意識して戦いに臨みました。結果としては106点総合4位となり、分析から約10点の上乗せし京都教育大には勝つことができましたが大阪大学には負けることとなりました。上乗せができていることから全体としてはいい結果と言うことができますが、細かく見るとフィールド総合得点が一位の大教大と同点であるにもかかわらず一位の数が劣り2位になったこと、格上ではあるが分析では勝っていた京都大学に負けたこと、分析外からの得点はあったが取りこぼしも多くあったことなど、惜しい部分もありました。

来年の関西インカレ一部昇格をめぐる争いは今年よりは僅差による決着になるのではと予想していますが、僅差で勝つか負けるかには大きな差があると考えています。そのような戦いで必ず勝つことができるチームが強いチームであると思うので、残りの阪神四大、西日本五大、京阪神では分析通り戦い、さらにそこから上乗せをして格上に勝つことを意識します。暑い中応援ありがとうございました。これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

女子主将:宮崎奏菜

女子チームとしては77点獲得の4位という結果でした。順位としては分析通りとなりましたが、大会新や関西インカレの標準記録切りも見られました。また3位の大阪大学に3点差と迫りチームとしての自信になったと思います。この良い流れの中で更に一人一人実力をつけ、また次の西日本五大を始めとする対校戦を戦っていきます。暑い中応援ありがとうございました。今後とも練習に励んでまいりますので、応援のほどよろしくお祈りいたします。



3000m 大会新記録で優勝した仲野(3)



走高跳 昨年の雪辱を果たし優勝した日高(4)



走幅跳 2連覇した武村(4)

<女子>

種目	順位	氏名(学年)	記録(風)	備考
100m	7	武村明香(4)	T 13"20 (+1.4)	
	8	臼井晴香(2)	T 13"56 (-1.6)	大学ベスト
		和三はるか(2)	T DNS	
200m	8	宮崎奏菜(3)	T 27"42 (+1.8)	自己新
		荻野今日子(3)	T DNS	
		和三はるか(2)	T DNS	
400m	4	佐長亜彩(3)	T 1'00"40	自己新関カレB西カレB
		宮崎奏菜(3)	T 1'02"09	大学ベスト
		荻野今日子(3)	T DNS	
800m		園田那織(3)	T 2'27"63	
		前田佳穂(1)	T 2'33"88	大学初 自己新
1500m	2	仲野由佳梨(3)	決 4'46"10	
	6	小坂みゆ海(2)	決 4'59"37	
	7	岡下真子(2)	決 5'02"12	大学ベスト
3000m	1	仲野由佳梨(3)	決 10'11"11	大会新
	5	小坂みゆ海(2)	決 11'20"16	
	6	岡下真子(2)	決 11'21"67	
4X100mR	4	臼井(2)宮崎(3) 佐長(3)武村(4)	T 52"06	
走高跳	1	日高水樹(4)	決 1m63	
走幅跳	1	武村明香(4)	決 5m36 (+0.7)	
	5	岩倉美晴(3)	決 4m95 (-1.4)	
砲丸投	6	日高水樹(4)	決 8m21	
	7	武村明香(4)	決 7m76	大学初

暑い中で声援ありがとうございました! (敬称略)

新18平田明男 新32鎌田早苗

2013年加古川競技場から始まった近国体の観戦は、今年で7回目になった。初めて応援した時の学生は、大学院に進学した者も含めてみんな卒業したことになる。今回の会場は奈良市鴻ノ池陸上競技場。ここは、1984年社会人1年目の年に生涯唯一兵庫県の番号「28」をつけて走った、奈良わかき国体の会場だ。また、その30年後2014年に最後にフルマラソンを走った奈良マラソンのゴール地点でもある。巡りあわせに感謝して今年も応援に来させていただいた。

まず、競技日程を見て驚いたのは、女子のトラック種目が全てタイムレース決勝になっていたことだ。様子を見てみると、他大学の中には、明らかに人数が減っているところも見受けられる。国立大学に進学して、さらに陸上競技を続けるのがいかに大変かということに改めて感じた。それでも、神大女子はほぼ例年通りのエントリーをしている。彼女たちにとって大切な大会であるという位置づけが伝わってくる。

トラック競技は、初めのうちは男子の予選が続くので、女子はフィールド競技からのスタートだった。日高は専門の走高跳のほかに砲丸投にエントリーしていたが、競技開始時刻が30分差、しかも、走高跳決勝が先に始まるが、日高自身は序盤パスをするということで、競技時間が重なってしまった。砲丸投の出場者が7名だったことが幸いして、3投目までをパスして、走高跳を競技、1m63で優勝を決め、1m68を3回失敗したところでそそくさと砲丸投に戻っていった。1m68は惜しい跳躍だった。落ち着いて競技できればもっと跳べただろう。4回生で最後になる大会、部の事情で毎年のように種目を掛け持ちしてポイントゲッターになっていたのだが、常に結果を残してきた姿は素晴らしかった。

砲丸投は本来跳躍種目が専門の日高と武村が挑戦した。日高が8m21の6位、武村が7m76の7位だったが、この5点は4回生の心意気のように思った。

女子のトラック種目、最初は1500mの決勝。それはこれまでと変わらない。仲野は7月の三商大戦オープンで学内新を出したばかり。これまでは控えめな感じがしたこともあったが、今は走りが凛々しく見える。三商大戦も、今回も小坂、岡下と一緒に出場している。日ごろから切磋琢磨しているのだろう。スタート後、一時は3人がまとまって走る場面があった。最後には差がついたが、仲野が4'46"10の2位、小坂が4'59"37の6位、岡下が5'02"12の7位と、全員が得点した。この3人は、3000mも暑い中でのレースを走り抜き、仲野が10'11"11の大会新で優勝、小坂が11'20"16の5位、岡下が11'21"67の6位だった。仲野のレース運びは完璧で、あと1周の鐘が鳴るまでは大阪大の選手と並走、そこから一気に突き放した。隣で応援していた大阪大の男子学生が「あのスパートをされたらかなわない」とお手上げ状態で話すのが聞こえて気持ち良かった。大会新ボーナス5点を加えてこの種目だけで戦力分析を上回る20点を獲得した。

女子のトラック種目、男子1500mの予選がなくなったことで、12時台にトラックの休み時間ができた。他大学も条件は同じだが、特に女子選手は決勝1本に集中することができ、力を発揮することができたのではないだろうか。

100mHは和三が14"65で3位に入った。今年に入り、14秒台前半まで記録を伸ばしている。今大会はこの1種目のみの出場だが、今後は短距離の主力として複数種目に出場することが期待されるだろう。もっと多くの場面で、その伸びやかな走りを見たいと思う。

400mは佐長が1'00"40の自己新で4位、宮崎奏菜は1'02"09の9位だった。8位までに入った選手が6つの大学に分かれていて、どの大学にもチャンスがある。今回は入賞が1名だったが、あと少しの頑張りで複数の入賞が見えてくる。キツイ種目だが、がんばって記録を伸ばしてほしい。

100mは2組5着だが13"20で走った武村が全体の7位、1組2着の13"56で走った臼井が全体の8位だった。臼井のタイムは9位と100分の2秒差で、このようなところで点数を積み重ねることが、総合得点を争うときに大切になる。よくがんばった。

800mは園田と前田が1組に出場した。園田は2'27"82とほぼ自己記録に近いタイムで走ったが、全体9位、前田は2'33"48と自己記録を更新したが、全体12位で、残念な結果になった。800mはわたしの専門種目だったので、特に気になる種目だ。選手の走りを見ていて、まだまだ伸びると思った。秋のシーズンに向けてさらなるレベルアップを期待している。前田は1回生女子唯一のランナーだ。神大で陸上競

技を続けることを選んでくれたことはOGとして嬉しい。上級生から良い刺激をもらって伸びてほしい。

200mは神大から唯一出場した宮崎奏菜が27"42の自己新で8位に入賞し、1点を獲得した。

走幅跳は2名が出場し、武村が5m36で優勝、岩倉が4m95で5位に入り、12点を獲得した。武村は3回のファウルがあったが、2位と4cm差、3位と5cm差で勝ち切った。

4×100mRは学内セレクションを経て決まった臼井、宮崎奏菜、佐長、武村のオーダーで、52"04の4位だった。

総合得点はトラックが52点で3位、フィールドが25点で4位、総合は77点で4位だった。昨年度はトラックが22点で、短距離種目の得点は100mHとリレーだけだったことを思うと、今年は2倍以上の点を獲得した。他大学の結果を見てみると、大阪教育大は安定の強さ、京都教育大は一時の圧倒的な力が見られなくなっている。大阪大の女子選手の増加とレベルアップは神大女子の前に立つ壁になりそうだ。それでも常に自己記録の更新を目指して、練習に取り組んでほしいと思う。

今年、初めて選手と走りの技術やウォーミングアップのやり方などについて会話をさせていただいた。また、何人かの選手に「応援聞こえました。ありがとうございます」と言っていたいて、とても嬉しかった。選手たちからしたら母親以上の年齢のOGには話しかけづらいかもしれないが、それでも現役部員たちの役に立てることは何かないかと考えていることを知っていてくれるとありがたい。

男子はフルエントリーして、秋の対校戦、来年度の関西インカレを視野に入れた戦いをするということで、大会前に気合をいれて臨んだ。一部のみ紹介になるが、ご容赦願いたい。

100mは喜多、仁尾、野崎が出場したが、決勝進出は10"81で走った喜多のみだった。喜多は決勝では10"95で8位だった。本人は前年度と同じくらいのタイムで走っているが、周囲のレベルが上がっているため、順位を落とした形になった。仁尾は今年に入って10秒台で走れるようになり、7月の三商大戦に続いて10"86と自己記録を更新したが、決勝に進出できなかった。今後に期待したい。

3000mSC、持ちタイムトップの藤田がスタートから飛び出した。暑さで徐々に消耗したのか、途中抜かれたが、その後も粘り強く走り、9'38"89の2位だった。若江も5番手あたりを維持して走り、10'12"77で6位に入った。

1500m決勝は女子のがんばりを見た直後だけに気合が入っていた。積極的に前に出て、ラスト1周でスパートをかけた松井が4'02"31の自己新で3位に入った。堅実なレース運びをしていた谷垣は4'06"93で8位に入った。

フィールド種目は安定した結果を残し、総合で2位だった。事前の戦力分析でも2位の予想だったが、結果は1位の大阪教育大と同点の2位だった。

昨年強風に悩まされた棒高跳には1回生の山崎が出場、3m60で7位に入った。砲丸投も1回生2人が活躍、芦田は11m98で2位、矢野は10m78で5位だった。これからフィールドパート、神大陸上部を盛り上げる存在になってほしい。

スウェーデンリレーは喜多、近藤、高岡、今城のオーダーで、1組では3着だったが、全体では4位になった。

男子総合はトラックが47点で4位、フィールドが59点で2位、総合は106点で4位だった。近年男子はトラック種目で得点していたが、今年は試練になったかもしれない。今回の結果を課題として、練習に取り組んでほしい。

今年5月に女子やり投げ、6月に男子100mで大学生が日本記録を更新し、若い力が躍動している。また、世界リレーが横浜で開催されたり、陸上競技の大会がテレビ放映されたりするなど、陸上競技が広く世の中に関心をもって見られるようになってきた。それでも、大学で陸上競技を続けることは簡単なことではない。そのような中で、陸上競技に取り組み、努力を続ける神大陸上部の部員たちに、改めて敬意を表したい。



新32 鎌田さん 高畑主将 宮崎女子主将 平田副会長